

J-46

記憶と誇りをつなぐ複合施設 — 富山競輪場再生計画 —

A Complex Connecting Memory and Pride — Toyama Keirin Velodrome Regeneration Plan —

佐藤信治¹, ○大野紗矢香²
Shinji Sato¹, * Sayaka Ono²

Toyama Keirin Velodrome faces challenges such as declining usage rates and regional issues like a declining birthrate and aging population. However, it is an urban resource possessing a station, waterfront, and vast grounds. Considering its historical background as part of post-war urban reconstruction following the Toyama air raid, this plan aims to revitalize the velodrome not merely as a gambling facility, but as an urban apparatus. It enables flexible use both during and outside keirin events, introducing a civic gathering plaza, cafes, and markets to serve as a community hub. Furthermore, by integrating historical exhibits into the circulation paths, it offers visitors an experience where they can explore the city and waterfront while engaging with the memory of the Great Toyama Air Raid. This redefines the velodrome as a new urban device that fuses its functional role, historical value, and the urban experience.

1. はじめに

本計画は、富山競輪場を舞台に「戦争の記憶」と「文化の誇り」を交差させ、市民に開かれた複合施設として再生を図るものである。

1945年8月2日の富山大空襲により、富山市街地は約99.5%が焼失し、多くの命と暮らしが奪われた。その復興の過程で戦災復興資金を確保するために建設されたのが富山競輪場である。戦後の経済を支える装置として誕生した一方で、現在は教育や歴史文化を重んじる岩瀬の町において「ギャンブル施設はふさわしくない」という認識も強くその存在意義はしばしば問われてきた。富山は現在少子高齢化など地域課題を抱えている。この時代における富山の再建における富山競輪場のあり方を再考する。

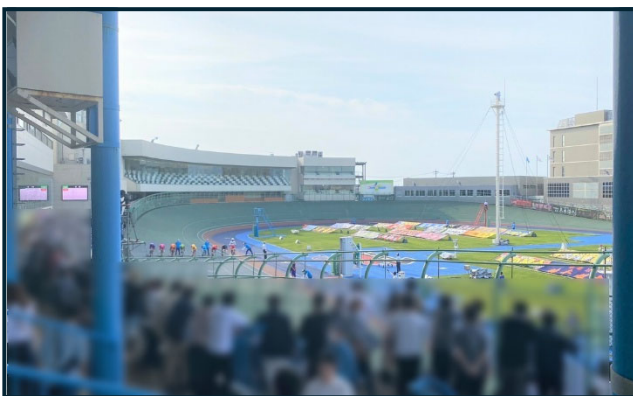


Figure1. Toyama Keirin Track [1]

2. 計画背景

2.1 都市・地域の課題

富山競輪場は高い壁で覆われ閉鎖的で、利用者が限られており、街との接続性が弱いという課題を抱えている。一方で、敷地は駅・水辺・広大な駐車場を有して

おり、都市資源としての潜在的価値は高い。地域の歴史や文化、自然環境を、建築デザインに組み込むことで、回遊体験や都市流動装置としての価値を高めることが可能である。

2.2 富山大空襲と戦後復興

競輪場の在り方が見直されている現在新たな都市再建装置としての位置づけを富山競輪場で行う。本研究では、この歴史的背景を踏まえつつ、競輪場を流動させる都市装置として再定義すること、競輪場を単なる賭博施設として捉えるのではなく、現代に必要とされる町に開かれた建築として再生し、街や水辺への回遊体験を自然に誘導するとともに、富山大空襲の歴史を体験の一部として組み込むことを目的とする。



Figure2. War Damage Overview Map Toyama [2]

3. 建築敷地

敷地は岩瀬地区に位置し、駅及び水辺に近接している。広大な敷地と既存の施設構造を活用することで、競輪場としての機能を保持しつつ、市民が自由に利用で

1:日大理工・教員・海建 Department of Oceanic Architecture and Engineering, College of Science and Technology, Nihon University.

2:日大理工・学生・海建 Department of Oceanic Architecture and Engineering, College of Science and Technology, Nihon University.

きる空間を整備することが可能である。特に、本計画においては、競輪場を起点とした回遊路を設計し、利用者が施設内を巡る過程で自然に街や水辺へ導く構築する点に敷地の価値がある。



Figure3. Planned site[3] Figure4. Waterfront

Figure5. Keirin Track Map

4. 基本計画

本計画のコンセプトは「競輪場を起点に流動させる都市装置化」である。

4.1 競輪場本来の機能の保持

競輪場の基本機能であるレース運営や観覧機能は維持する。既存施設のトラック・観覧席・駐車場を活用しつつ、回遊路や可変的な空間構成により、競輪開催時と非開催時で柔軟に利用できる設計とする。これにより、歴史的・社会的価値を保持しつつ、都市装置としての再生を可能とする。

4.2 市民交流空間の整備

施設内外における市民交流の促進を目的として、常時利用の多目的広場、マルシェ、スポーツ・イベント空間、カフェ・ラウンジなどを導入する。これにより、競輪場は単なるギャンブル施設にとどまらず、地域住民の交流や活動の拠点として機能する。また、回遊路と連動させることで、街や水辺への自然な誘導も可能となる。

4.3 歴史的要素と回遊体験の統合

富山大空襲に関する歴史展示を競輪場内回遊路に組み込み、来場者が街の記憶に触れながら体験できる仕

組みとする。回遊路は町や水辺へと連続し、利用者を自然と町を巡るよう誘導。光・高さ・素材などを用いた時間的演出により、歴史的背景と現代の都市活動が融合した空間体験を形成する。



Figure6. Iwase Area Tourist Map[4]

4.4 導入施設

- 1) エントランス
- 2) 競輪場内回遊路
- 3) 歴史展示コーナー
- 4) 街・水辺への誘導
- 5) 市民交流広場
- 6) カフェ・ラウンジ

1) エントランス：施設のスケールと都市接続を体験できる空間

2) 競輪場内回遊路：歩行または自転車で巡る。展示、休憩、歴史スポットを配置

3) 歴史展示コーナー：富山大空襲の記録を簡略に紹介

建物模型、写真、焼失率、都市再建の経緯を提示
回遊路の一部として設置し、「街の記憶に触れながら進む」体験を演出

4) 街・水辺への誘導：回遊路が自然に外部へ延び、駅・広場・水辺へ連続

5) 市民交流広場：イベント、スポーツ、マルシェなど多目的活動を可能とする空間

6) カフェ・ラウンジ：情報発信及び交流の場

5. 参考文献

- [1] Rakuten K ドリームス
<https://info2.kdreams.jp/entry/2023/05/28/180000>
- [2] 国立公文書館デジタルアーカイブ
<https://www.digital.archives.go.jp/gallery/0000000125>
- [3] Google Earth
<https://www.google.co.jp/intl/ja/earth/index.html>
- [4] 富山市の観光公式サイト
<https://www.toyamashi-kankoukyoukai.jp/?tid=102514>